

# 組紐・組物学会 ニュースレター

The Kumihimo Society Newsletter



Volume

2

Number

2

2012年2月11日

## 組紐・組物学会行事（終了分）

- 2011年8月26日(金) 10:00～16:00 第3回京都ワークショップ 多田牧子「アンデスの平組紐&検定対応」  
2011年8月27日(土) 9:00～12:10 レクチャー 多田牧子「検定対応」  
2011年9月3日(土) 10:00～16:00 第3回東京レクチャー 菊川啓志(多田牧子代講)「金剛組24玉」  
ワークショップ 多田牧子「組フェルト」  
2011年10月28日(金) 10:00～16:00 第4回京都ワークショップ 小村眞理、春日弘子「クテ打基礎技法」  
2011年10月29日(土) 9:00～12:10 レクチャー 多田牧子「検定対応」  
2011年11月12日(土) 10:30～16:00 第4回東京ワークショップ レクチャー 亀井三枝子「クテ打組紐・入門」  
ワークショップ 亀井三枝子「クテ打組紐・入門」  
2011年12月10日(金) 9:00～12:00 第5回京都ワークショップ レクチャー 多田牧子「検定直前レクチャー」  
2011年12月10日(金) 13:00～16:00 組紐検定 筆記試験  
2011年12月11日(土) 9:00～12:00または13:00～16:00 組紐検定 実技試験  
2012年1月21日(土) 10:30～16:00 第5回東京ワークショップ レクチャー 亀井三枝子・相原日出子「絲の旅  
人展より」ワークショップ 亀井三枝子・相原日出子「プレートを使って組む鼓組コースター」

## 目次 Contents

2 組紐製品の製造・開発と販売 こるどん株式会社の場合 後藤百合子

6 アンデスの組紐 京都工芸繊維大学公開講座 組紐・組物学会共催 多田牧子

## 10 組紐・組物学会行事予定

### In this issue

Development and marketing of Kumihimo products

by Yuriko Goto

Andean braids

by Makiko Tada

Forthcoming Kumihimo events in and outside of The Kumihimo Society

## 組紐・組物学会ニュースレター

第2巻第2号 2012年2月11日発行

編集・発行 組紐・組物学会事務局 京都工芸繊維大学大学院

伝統みらい教育研究センター 仲井研究室内 〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎御所海道町

TEL/FAX:(075)724-7844 E-mail: inoda@kit.ac.jp

本印刷物と同じ内容は学会のWebでもご覧になれます。http://www.kumihimo-society.org

▼ 3色の糸と組紐の織りのパターンで迷彩柄を演出 (左) 微妙なグラデーションが美しい袋紐 (右)

# 組紐製品の製造・開発と販売

Yuriko Goto

後藤百合子

こるどん株式会社 代表取締役



◀ 綿麻アクリル糸を撚り合わせて作ったオリジナル糸で組んだリネンカラーコード



## 沿革

こるどんは1916年(大正5年)、現在の静岡県富士市で(有)根方製紐社として産声を上げました。当時、私の曾祖父が横浜の商社から製紐機を輸入するのでそれで靴紐を作り、できた製品は買い上げて輸出するのでぜひやってみないか、という話があって創業したと聞いています。商社から声がかかった人がこの地域に数人いたそうで、同時期に5社ほどが製紐業を創業しています。そのため、現在でも静岡県東部地区は全国の靴紐、綴り紐のトップシェアを誇り10社程度が製紐業を続けています。

その後弊社は海軍の指定工場となり軍靴の紐や高価な絹糸を使用したパラシュートコードなどを生産するようになりますが、終戦とともに最大の顧客がいなくなったため方向転換を図りスニーカー用の靴紐メーカーとして再出発し

ます。折しも日本は高度経済成長の真っただ中。作っても作っても商品が足りないという状態が長く続き、1969年には騒音公害を避けて24時間製紐機を稼働させるため現在の本社工場がある土地に移転(当時、周囲は一面茶畑しかありませんでした)、フル稼働で生産を続けてきました。

いっぽう時代の変遷につれて弊社では業務内容をさまざまな分野に広げていきました。靴紐はもちろん、1970年代には米国向けにバスケットネットなどスポーツ用品の紐の輸出、国内消費が盛んになった1980年代にはカメラのストラップやアクリルコードなど家電やショッピングバッグ向けの紐、バブル時代の1990年代にはスキーウェアにつけるドロコードや飾り紐、2000年代には携帯電話、デジタルカメラ、MP3、携帯ゲーム機用ネックストラップやハンドストラップなど、そのときどきのトレンドに対応して商品を開発し、ユーザー様にご提供してきました。

昭和9年に掲載された新聞記事



現在ではギフト需要の多様化やグローバル経済化、繊維のハイテク化という時代の要請を受け、ラッピングや輸出、高機能繊維を使用した組紐の開発・販促に力を入れています。

## 商品とサービス

弊社商品の最大の特徴は何といってもそのバリエーションの広さにあります。

お客様からのOEMである受注生産品を除く定番・準定番商品のみでも約7,000アイテム。定番中の定番のアクリルのベーシックな組紐だけで13型123色、1,599アイテムという数です。これらの定番・準定番商品を常時在庫し、お客様のご要望に合わせほとんどの商品でカセなら1反50mから、カットは1本から即日出荷しています。

万が一在庫がない場合でも原料在庫を積んでいますので、すぐに仕掛かることができます。「こるどんのお約束」というお客様へのお約束に従い、早いものでは翌日から時間のかかるものでも1,500mまでは5日以内に出荷できるシステムになっており「多品種少量でスピーディーなデリバリー」を求められるお客様にご好評いただいています。

品質へのこだわりも弊社商品の大きな特徴です。ゴムテープや綿、ケナフなどの天然素材など、日本で生産していない一部原料を除き、ほとんどの原料には国産品を使用しています（輸入原料も必ず公的機関で試験を行いパスしたもののみを選んで輸入）。日本の原料メーカーさん

▼ 太さを生かせる 10mm 丸紐)



が国際競争の波に曝されて苦戦する中、少しでも良い原料を使用し、原料メーカーさんたちと将来にわたって共存共栄していきたいという強い思いが背景にあります。コストダウンはもちろん必要ですが、単なる価格競争だけに終始していたら原料メーカーさんも、弊社も、お客様も徐々に体力を消耗し最終的には国内生産をあきらめざるをえないことは明らかですので、そんな状況を回避するためにも積極的に日本製原料を使用し、輸入品との違いをお客様にアピールしています。

それでも差別化が難しい場合は、社内で原料（原糸）を製造したり、後加工で従来品とは違う風合いや外観を作ることもあります。原糸を作ってご好評をいただいている代表的な例はリネンカラーコードで、アクリル糸のもつ美しい発色性と綿麻糸がもつ素朴でナチュラルな風合いを兼ね備えた紐を作りたいと考え撚糸機を使用して糸を作りました。また、この紐先をほつれにくくさせるため蒸気力で糸をばらけにくくさせるスチームセット機の開発も同時に行って使用しています。また、昔からある製紐機の部品を一部改良して新しい商品開発なども行っています。

## 新商品開発

それでは新商品開発の流れを具体的にご紹介しましょう。弊社では毎月、営業部販売促進グループの社員が1人2つ以上の新製品を作り発表することになっています。この中には現状の商品を改良したものやお客様からご要望いただ

ポリエステル袋紐のクオリティコード  
ロゴを印刷して販促用に





◀ 毛糸玉からそのまま引き出してきた様なふわふわ素材の毛糸ゴム

いて作った製品のバリエーションなども含まれます（実際には、特定のお客様のために特別にお作りしたものは「留め型」として通常は一定期間同業他社には販売しないことが不文律になっています）。

新製品で一番作り易いのは何といっても新しい素材を使用した商品です。

比較的最近ヒットした商品に「こるどん毛糸コード」という組紐とゴム紐のシリーズがあるのですが、これはドイツ製のウール、アクリル、ナイロンの混紡糸を使用して開発しました。従来からある100%ウールでは摩擦や引っ張り強度に弱く組紐の材料として使用できませんでしたが、この糸にはアクリルやナイロンが入っているため発色が非常によく、かつ製紐機で組むことのできる強度もありました。糸商さんからこの糸をご紹介いただきさっそく試作をしたのですが「毛糸だからほっこりとした暖色」という既成概念にとらわれず、思いきってみずみずしいビタミンカラーを選びました。この作戦が功を奏し、新商品として販

売してから数か月のうちに3社のお客様が自社定番品として採用してくださり、現在まで続くヒット商品となっています。

さらにこの糸を使用して作ったバリエーションが「こるどんノルディックコード」です。

一部のお客様の中に「もう少し落ち着いた色もほしい」というご要望があったため、「こるどん毛糸コード」のシリーズにベージュやネイビーなど冬らしい色も追加しました。そこで今度はこのような色と白を組み合わせる柄紐を作り北欧調の柄を作ってみました。ちょうどファッショントレンドのノルディックと重なったため今度はアパレルメーカー様からも注目を浴びました。

「こるどん毛糸コード」にはその後お客様からのご要望で平タイプのゴム紐が加わり、ノルディックコードには異素材と混紡した柄紐も登場しています。このように機械や組み合わせる素材を変えて少しずつバリエーションを増やせるところも新素材のおもしろさです。



◀ 秋冬にぴったりなノルディックコード 1



セルチップ / 金属チップ等  
の紐先加工 ▶

また、その他にも、紐先加工方法（金属チップの開発など）や紐本体への後加工（シリコン溶剤塗布など）、金型や機械そのものから開発するケースもあります。このような場合には投資が必要ですので通常はじっくり考えて判断しますが、「何とかこういう商品を作ってほしい!」というお客様の熱意に負けて採算を度外視して研究・開発をすることも少なくありません。

## 販売促進

このように弊社では常に新商品開発を行い、さまざまな商品やサービスをお客様にご提供していますが、いくらよ

い商品やサービスをもっていてもそれを知っていたかなければ販売に結びつきません。そこで日々行っているのがセールスプロモーション（販売促進）です。

現在この中心はインターネットを使ったものになっています。まずホームページですが、常に最新の情報を更新して新商品情報や展示会情報などのお知らせもトップページに掲載しています。ホームページの最大の強みはリアルタイムで情報更新ができることで、訪れていただいたお客様に「こるどんのHPを見ればいつも何か新しい商品を発見できる」と覚えていただくために毎月必ずトップページを更新しています。

さらに更新頻度が高いのがブログで、こちらは商品の使い方をメインに毎日更新しています。書いているのが全員女性なのでハンドクラフト系が多く「かわいい!」「すてき!」をテーマに既存概念にとらわれず自由に組み紐を使っていただけるよう、いろいろな工夫をしています。インターネット以外では、以前からずっと作り続けている現物の紐を貼りつけたサンプルカードが人気です。内職さんがひとつひとつ手作りで作っており、実際の紐の手触りや色などがわかるのが特徴で、これまですでに数万枚は出荷しています。また、昨年からはラッピング、アパレル、産業資材などカテゴリー毎に特化した印刷カタログも発行を始めました。リアルタイムではありませんが、手元に置いてばらばら見ても楽しめるよう読み物としての工夫もこらしてあります。

以上、こるどんという会社を知っていただくために駆け足でご紹介してきましたが、百聞は一見に如かず。ぜひホームページ、ブログを一度ご覧になってください!

HP : <http://www.cordon.jp>

ブログ : <http://cordon.cocolog-nifty.com/blog/>

こるどん「シリコンコーティングコード」サンプルカード (2014年10月) Ver.2.0-4

|        |  |       |  |
|--------|--|-------|--|
| 5W-100 |  | 8SCR  |  |
| 5W-150 |  | 22SCR |  |
| 5W-250 |  | 34SCR |  |
| 5W-400 |  | 24SCF |  |
|        |  | 32SCF |  |
| 015W   |  | #09   |  |
| 025W   |  | #Y-2  |  |
| 035W   |  | #11   |  |
| 045W   |  | #25   |  |
| 055W   |  | #35   |  |
| 065W   |  | #C-44 |  |
| 075W   |  | #34   |  |
| 085W   |  | #14   |  |
| 095W   |  | #46   |  |
| 105W   |  | #53   |  |
| 115W   |  | #26   |  |
| 125W   |  | ランロー集 |  |
| 135W   |  |       |  |
| 145W   |  |       |  |
| 165W   |  |       |  |
| 175W   |  |       |  |

◀ 紐の手触りや色がわかりやすいサンプルカード

# アンデスの組紐

Makiko Tada  
多田牧子



アンデス地方（現在のペルー、ボリビア）では、紀元前800年頃にはもう素晴らしい組紐がありました。丸組や角組の紐は投石紐（写真1）ベルト、荷造りの紐として、平組はターバンやベルトとして使われました。それらは非常に美しく繊細なもので、世界各地の博物館に保存されています。

R. Burgerによると、F. Engelがアジア遺跡から発掘した紀元前2500年頃のものとする植物繊維製の投石紐（ペルー国立人類学考古学博物館所蔵）が現存する最古の組物の投石紐のようです。実際に極めて高度な組紐がでてくるのは早期イカ文化（紀元前900～300年）で、平組はターバンとして、丸・角紐は投石紐として多用されていました。（写真2）アメリカのテキスタイルミュージアムには紀元前700年頃と推定されるターバン（日本の三並び菱唐組に酷似したもの）など多くの平組が保存されています。早期イカ文化はその遺品が出てきたのがパラカス半島だったところからパラカス文化とも言われます。それに続くナスカ文化の時代も素晴らしい紐が作られました。ナスカは地方の名前で、地上絵でも有名で、南海岸パラカス半島のつけねに位置します。早期イカ文化やナスカ文化は日本で言うと

縄文文化時代後期から飛鳥時代ころまでに相当します。

そのように古い紐がよく残っていたものだと驚かされますが、ペルーには大変に乾燥した地帯があり、死者を大量の布（長いものは40m位）で幾重にも巻き砂漠にある墓地に埋める風習があります。その包みの中に死者が死後使うための品々が巻き込んであるのです。中には150種の衣類が、家族を型取ったと思われる人形や宝飾品などと一緒に巻かれている例があります。つまりミイラ包みの中から古い時代の素晴らしい遺産が出てくるのです。しかし盗掘が多く、この地方が考古学の宝庫として脚光を浴び始めたころ、盗掘者たちは金銀製品や土器を目当てに探したので布や紐は捨て去られることが多かったと考えられます。しかしかなりの量の貴重な遺品が残されています。それらの遺品はペルー各地の博物館に残っていますが、やはり海外に流出したものが多く、欧米の博物館が数多く所蔵しています。現在アンデス地方では、こうした組紐は、残念なことに丸・角組の紐が少数の人々によっておみやげ用に作られているのみです。それも難しい組紐を作ることができる人はごく少数です。そして平組は全くといってよいほど作られていません。



▲ 写真1 植物繊維の投石紐

▲ 写真2 V字模様の平紐



### ミイラの頭骨とターバン

アンデス地方（特にパラカス地方）には古く頭の骨を人工的に変形させる風習がありました。遺跡から出てきたミイラでその様子を知ることができます。アンデスの人々は、私達日本人と同じモンゴロイドですから頭骨は短頭形のはずです。しかし、出てくる頭骨はだいたい後頭偏平型、前頭偏平型、円錐形型の3タイプに分けられます。赤ちゃんの時に偏平型はそれぞれ扁平にしたい部分に板のようなものをあて紐や包帯でしばり形づけ、円錐形型は、包帯で頭骨を締め上げ上部後方にのばしたものです。これは階級を表わすため、種族の区別、疾病予防のため、悪霊がとりつかぬよう、おしゃれのため、等いろいろな説があります。しかしいずれの場合も包帯などを巻いて形を整えますのでターバンが巻きやすい頭になっています。そしてターバンは一番目につきやすいところに巻くものですから、いきおい手間暇かけた美しいものが望まれたと考えられます。

アンデスのターバンは世界中の博物館に散らばっていますが、いずれも精緻をきわめた素晴らしいものです。巾はだいたい3cmから5cmくらいで、長さはひとまきにし

たと思える60cm位から、どうやって巻いたかわからないほど長い14m位までいろいろです。長い場合は、多分ひさしのように同一箇所にグルグル巻きにしたのではと推測されます。パターンは四つ組柄、蛇柄、雷文（写真3）、菱柄、幾何学模様と多彩です。素材はアルパカがほとんどで肌ざわりの良い糸を用いています。羊が南米に入ってきたのはスペインが征服した後ですから、ウールが細類に使われるのは16世紀以後になります。色は、アルパカの毛そのままの色を活かしたものとコチニール（サボテンにつく貝殻虫）や植物で染色したものがあります。

### 投石紐について

その名の通り石を投げる紐でペルーではオンダ、ワラカと呼びます（写真4）。紐中央部のゆりかご状の部分に石を載せ、紐を二つ折りにし、片方の紐の端にある輪に指を通し（紐が石と一緒に飛ばないように）紐の両端をしっかりと持ち振り回します。スピードがついた時点で、輪ではない方の紐端をはなして石を飛ばします。単に手で石を投げるより、遠心力を利用するので数倍の飛翔力をもち、熟練



写真4 動物繊維の投石紐 ▶

▼ 写真5 投石紐を組む男性



すればかなりの的中率で馬をも倒す威力を持つそうです。世界の狩猟民族のほとんどが、素材の違いはいろいろですが、このタイプの投石紐を持っていました。しかし最も複雑な組紐技法で投石紐を作ったのは、ペルーとボリビアでした。この地方では男性が自分自身の武器として、ていねいに心をこめて美しく使いやすい投石紐を作り上げたのです。(写真5) 武器として使わない時は、頭に巻き付けたり肩から斜めにかけ背中で結んでたらし男達のおしゃれの仕上げとして用いました。16世紀スペインが侵略したときボリビア・タラプコ地方のケチュア族はこの投石紐を駆使して銃と馬で武装したスペイン軍に勝ったといわれています。現在ではアンデス中央部のアプリマック川流域にお祭りとしての模擬水戦争（隣村との水の奪い合い）の風習が残っています。これは実際に石をとばして戦いますので、年によっては死傷者が出ることもあり、血が流れた



写真7 リマの国立人類学考古学博物館  
Museo Nacional de Arqueología  
Antropología e Historia ▶

▼ 写真6 ダンス用スリング



時は大地の神パチャママにその血を捧げたとして、豊作が約束されると信じられているそうです。現在使われている投石紐は飼っているリヤマやアルパカ、羊を追うための実用的なものか、またはお祭りで身に付ける色鮮やかなポンポンがたくさんついたもの(写真6)、そしてやはりお祭りのダンスで用いられるたつぷり房のついた装飾用の紐で、かつての素晴らしい投石紐の伝統を守り伝えるインディオは少なくなっています。

## 博物館の倉庫

1985年、ペルーに行って国立人類学考古学博物館や天野博物館の倉庫を見学し、この時の感激が私を倉庫好きにしてみました。博物館の醍醐味はなんといっても倉庫です。天野博物館は見たければ全部見せてもらえる素晴らしい博物館で、倉庫の引き出しの中には古代からの贈り物がたくさん入っています。雷文や翼文、斜格子の柄に組まれたベルトやターバン、古い投石紐がぎっしりです。私は組紐を中心に見せてもらいましたが、染織品はそれぞれ大量で、染織を研究する人にはまさに宝庫と言えるでしょう。こういう博物館は稀で、普通ほとんどの博物館は展示スペースしか見られませんが、展示スペースにはどんな興味の方にも対応できるように一通りのものが並べてあり、一つ分野を突き詰めて研究したい人にはちょっと物足りないものです。そして裏の倉庫には表の何倍も入っています。

ペルー、リマの国立人類学考古学博物館(写真7)の倉庫には私が見たくてたまらなかった8匹の蛇の組紐がありました。それは8匹の蛇がそれぞれ前の蛇のしっぽに噛みついて全体が432cmの長さとなったもので、心をこ





めて作ってあるのがよくわかります。美しく気品のある紐で、インカ帝国よりずっと前の紀元前 200 年頃の人々の感性を偲ばせるものです。

フランス、パリのミュゼ・ド・ロム（人間博物館 茶新 8）はエッフェル塔に対面したシャイヨー宮にある大きな博物館です。ここは展示スペースが広く内容も豊富でそれだけでも満足できる所ですが、倉庫の中にはもっとたっぶりいろいろのものが置いてあります。写真は自分で撮ることが出来ませんので写真部に注文します。

スイス、バーゼルのフォルカークンデ（民族博物館）はとても素晴らしい博物館です。たいへん感激したのは、あらかじめお願いしておいた所蔵品が私が訪問したときにすでに研究室に出して並べてあったことです。そして所蔵品の手入れがとてもよく、美しい状態で組織をみることができます。遺品を発掘したままの状態で保存するか、土や汚れを落としそれを使っていたときの状態で保存するかはそれぞれの博物館の方針があると思いますが、組織がどうなっているかを見たい人には後者の方が断然ありがたいと思います。蛇の行列柄の平組や頭飾りまたは胸飾りと思われるクロス柄の二重平組などがあります。

ドイツ、ミュンヘンのフォルカークンデ（民族博物館）は飛び込みでお願いしたにもかかわらず倉庫の中を見せ



てもらえました。床から天井までの引き出しがぎっしりとならんだとても広い倉庫で所蔵品の多さにびっくりしました。古い投石紐がたくさんあります。（写真 10）

イギリス、ロンドンのミュージアムオブマンカインド（人間博物館）は見たいものをあらかじめ注文すると明るい閲覧室で見ることができます。三重平組や織りと組みで二重になったものなど手間をかけて作られた品々があります。

アメリカ、ワシントンDCのテキスタイルミュージアム（染織博物館）はその名の通り染織品がぎっしりです。古代アンデスの平組が一番多く所蔵しているようです。バームクーヘン状に巻かれたいろんなタイプの長いターバンが引き出しに整然と入っています。平組でできた投石紐などたいへん珍しい遺品も所蔵しています。ニューヨークのメトロポリタン美術館は織物で作られた小さいバッグの下に平組が房飾りと一緒についている面白いものが数種あります。

日本では豊雲記念館（神戸市）がターバンなど素晴らしい組紐類を所蔵しています。常に公開しているわけではないので予約が必要です。他に天理大学附属参考館（奈良市）は変わったタイプの投石紐を所蔵していますし、遠山記念館（川越市）はだいたい毎年アンデス展の企画があり、たくさんの織物とともに投石紐や平組を一般公開しています。

▲ 写真 11 アンデスの組紐技法による帯締め

## おわりに

古い昔の組紐は、アンデスの紐も日本の紐も能率を考えずに手間や暇をかけて作った本当に素晴らしいものです。そういう紐を昔の人々はどのような方法でつくったのでしょうか。

博物館などに残された遺品を写真に撮らせてもらい、糸がどのように紐の中を動いているかを考え遺品に近いサンプルを作ります。このサンプル作りが一番面白いところです。そしてそれをもとに復元したり、現代の用にあう新しいものを工夫して作ります（写真 11）。いずれにしても時間がかかりますが、できあがりの喜びはひとしおです。またどういう人がそれを使ったり身に付けたりしたかを想像するのも楽しいことです。



◀ 写真 10 ミュンヘンの民族学博物館 Museum für Völkerkunde

## 第2回組物検定終了 12月

第2回の組物検定試験が2011年12月10～11日に京都工芸繊維大学で行われました。

組物検定は、組物を社会に広め、組物技術の向上と発展、技術指導者の育成を目的として、組紐・組物学会が2010年度から実施している検定試験です。性別・年齢・学歴等の制限はなく、またどの級からも受験することができます。検定基準となる各級の技術到達度は以下のとおりです。

■5級：丸台と角台の8玉、16玉。

組物の基礎的な技能と知識があるか。

■4級：丸台16玉、24玉。

組物について専門的技能と知識があるか。

■3級：クテ打初級、綾竹台初級。

組物について専門的技能と知識を持ち、丸台で創作組紐を作るなど、応用能力があるか。

■2級：クテ打中級、綾竹台、高台1枚物など。

組物について専門的技能と知識を持ち、指導者の補佐ができるか。

■1級：クテ打上級、高台2枚物の綾書ができる。唐組台の実技。

組物について高度な専門的技能と知識を持ち指導する実力があるか。

本年度は3・4・5級試験のみで、各級とも筆記と実技の試験が行われ、23名の方が受験しました。

筆記試験は3・4・5級 同じもの（一部選択問題）を実施し、獲得点数により判定します。本年度の合格ラインは4級が80点（平均89点）、3級が80点（平均78点）でした。

実技試験は試験会場で組まれた作品をもとに審査員が判定します。間違いの有無、時間内に所定の長さに組まれているか、動作と出来映えの3つの観点からA、B、Cの3段階評価とし、A、Bが合格となります。

その結果、4級合格者は8名、3級合格者は7名で、

合否結果は実技試験で制作した作品と共に、各受験者に年内に郵送されています。認定証の授与は6月8日の懇親会場で行われます。

なお、今年不合格になった科目は、翌年にその不合格科目のみを受験して合格すれば、その級に合格することが出来ます。

▼ 実技審査



## 作品展示会終了 10月

渡敬株式会社が全国の呉服店や商社・百貨店のバイヤー等を対象に毎年10月に開催する、帯締めを中心とした和装小物の展示会の中に、会員のための展示コーナーを設けて頂きました。それぞれの展示作品には作者のお名前も掲示されました。

名称：渡敬三ツ杵展示会

■開催日：2011年10月3日、4日

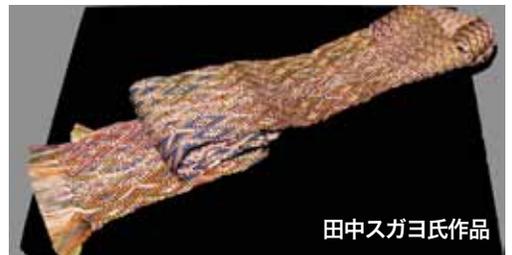
■場所：ビル葆光2階 中京区御池通室町西南角  
〒604-8118 京都市中京区堺町通三条下路道祐町148

■出品者：（組紐・組物学会員のみ）19名

小嶋博子、岡本睦子、田中スガヨ、菊川啓志、菊川ゆみ子、井上寿美子、銭谷信子、北村明美、西幾代、信原郁美、三上扶実子、安田栄子、丸山文乃、不破信子、倉橋延子、清澤澄江、甲田しのぶ、田中晴野、泉周子（順不同・敬称略）。



▲ 実技試験



田中スガヨ氏作品



銭谷信子氏作品

## ワークショップ 京都

### ■第1回ワークショップ&レクチャー

4月27日 ワークショップ 10:00～16:00 「アンデスの平組紐」 多田牧子

4月28日 レクチャー 9:00～12:10 「アンデスの組紐」 多田牧子

### ■第2回ワークショップ&レクチャー

6月8日 ワークショップ 10:00～16:00 「異素材で組む」 小嶋博子（その後、総会・懇親会）

6月9日 レクチャー 9:00～12:10 「組紐の道具と歴史など」 多田牧子

### ■第3回ワークショップ&レクチャー

10月12日 ワークショップ 10:00～16:00 「クテ打追加基礎技法」 木下雅子

10月13日 ワークショップ 10:00～16:00 「クテ打追加基礎技法」 木下雅子

### ■第4回ワークショップ&レクチャー

12月7日 ワークショップ 10:00～16:00 「検定直前ワークショップ」 多田牧子

12月8日 レクチャー 9:00～12:10 「検定直前講座」 多田牧子

12月8日 13:00～15:00 組紐検定 筆記試験

12月9日 9:00～12:00 または 13:00～16:00 組紐検定 実技試験

### ■第5回ワークショップ&レクチャー（2013年）

2月8日 ワークショップ 10:00～16:00 「鼓紐」 亀井三枝子、相原日出子

2月9日 ワークショップ 10:00～16:00 「唐紐」 亀井三枝子、相原日出子

### ■第4回ワークショップ&レクチャー（2013年）

1月19日 10:30～16:00 ワークショップ&レクチャー 「唐紐」 亀井三枝子、相原日出子

### ■第5回ワークショップ&レクチャー

3月16日 10:30～16:00 ワークショップ&レクチャー

## 作品・製品展示会 6月8日～

6月の総会、ワークショップに合わせて作品展と製品展示・物販展を開催する予定です。どうぞふるってご出品下さい。組紐・組物であれば材料や形態等問いません。丹誠込められた作品、個性あふれる作品、新しい発想の作品・製品を募集します。実物以外にもパネルの展示（作品制作工程、研究発表、製品説明）も可能です。

■場所：京都市内

■日時：2012年6月8日から1週間

■作品：50 x 50 cm のテーブル上に展示できるもの、または 45 x 100 cm のダンボールパネルにピンなどで張れるもの。オリジナル作品で、応募者本人が制作した組紐・組物作品に限ります。

■表彰：出品された作品・製品を対象に、組紐・組物学会学会賞1名、優秀賞2名、学会奨励賞1名を、理事の中の数名からなる学会賞選考委員会にて決定します。表彰式は懇親会場で行われます。

■製品：組紐関係の製品・素材・道具など、組紐複合材料と応用製品、組紐製造機械。

■広報：本学会の活動を広く知って頂くため、メディアへの広報を行い、DMやポスターを制作します。詳しくは追ってお知らせ致します。

## ワークショップ 東京

ワークショップが主で随時レクチャーをする予定です。

### ■第1回ワークショップ&レクチャー

5月12日 10:30～16:00 ワークショップ&レクチャー 「組紐の道具と歴史など」 多田牧子

### ■組紐検定試験

7月14日 10:00～12:00 組紐検定 筆記試験  
13:00～16:00 組紐検定 実技試験

### ■第2回ワークショップ&レクチャー

9月15日 10:30～16:00 ワークショップ&レクチャー

### ■第3回ワークショップ&レクチャー

11月10日 10:30～16:00 ワークショップ&レクチャー 「クテ打追加基礎技法」 木下雅子

## 第2回組紐国際会議 8月19日～

マンチェスターで開催される第2回組紐国際会議まであと半年になりました。現在のところ、日本から19名（学会員13名、一般6名）が参加する予定です。



▲ ロンドン・オリンピックスタジアム

日本人の参加が多いので、主催者側は大変喜んでい  
ようです。成田空港、関西国際空港からの出発はそれ  
ぞれ半数で、集合場所はマンチェスター国際空港です。  
ワークショップは Jennie Parry の高台クラス、  
Makiko Tada の唐組クラス、Adrienne Gaskell のビー  
ズのクラスが満員ですが、国内参加者の皆さんは全て  
第一希望のクラスが取れているとのことです。まだ他  
のクラスには余裕が有るそうです。ご希望の方は事務  
局までお問い合わせ下さい。

## 組紐ワークショップ の講師募集

組紐・組物学会では、京都で偶数月、東京では奇数月  
に1日または半日のワークショップを行っています。  
そのワークショップで講師をして頂ける方を募集致し  
ます。組紐に関する事なら何でも結構です。ご自分

の得意な分野でご応募ください。こちらで内容を検討  
の上、選考させていただきます。

■応募資格：組紐検定3級以上又は同等と認められ  
る方。自薦・他薦また複数の方が一緒になさっても  
かまいません。

■応募方法：お名前、ワークショップの題名とその内  
容、できあがるサンプルまたは作品の写真、受講者が  
持参するもの、おおよその材料費、会場側で準備する  
もの、ご都合の良い月、1日ワークショップか、半日  
ワークショップかを明記の上、組紐・組物学会事務局  
までメールまたはFaxでお送りください。

■備品：丸台20台、高台4台、Disk/Plate 多数

京都工芸繊維大学伝統みらい研究センター主催の  
ワークショップが5年、組紐・組物学会主催の京都  
組紐ワークショップが2年、東京ワークショップが1  
年半続きました。これからもワークショップを楽しく  
するために皆様のご意見もお寄せください。



組紐・組物学会  
The Kumihimo Society

### 役員

#### ■会長

多田牧子：組紐研究家

#### ■副会長

仲井朝美：京都工芸繊維大学

#### ■理事

上田隆久：日本ピラー (株)

魚住忠司：村田機械 (株)

大谷章夫：(独)宇宙航空研究開発機構

小嶋博子：組紐研究家

木下雅子：クテ打組紐技法研究会々長

倉谷泰成：(株)カド コーポレーション

國分成哲：(株)コクブンリミテッド

品川雅明：JX日鉱日石エネルギー (株)

多田眞作：(株)テキスト

寺本 靖：(有)寺本文化財工芸社

廣澤浩一：三重県組紐協同組合顧問

圓井 良：圓井繊維機械 (株)

渡辺一生：渡敬 (株)

### 事務局

猪田宮子：京都工芸繊維大学

## 組紐・組物学会事務局

京都工芸繊維大学大学院

伝統みらい教育研究センター

仲井研究室内

〒606-8585

京都市左京区松ヶ崎御所海道町

Tel/Fax: (075)724-7844

E-mail: inoda@kit.ac.jp

<http://www.kumihimo-society.org>

ご入会、ワークショップ、組紐検定の

お申し込みはこちらをお願いします。

組紐・組物学会ニュースレター

2巻2号 (年2回発行)

